

## 世界臨床検査通信シリーズ-81 臨床検査に関する団体の活動

# 世界病理臨床検査医学会連合 (World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine: WASPaLM) World Congress

群馬大学大学院医学系研究科 臨床検査医学 村上正巳

皆さまにご支援いただき、2017年11月にわが国で34年ぶりとなるWASPALM第29回World CongressをWASPALM presidentとして国立京都国際会館で開催させていただきました。第30回World Congressは、中国の西安でコロナ禍直前の2019年9月に開催されました。第31回World Congressは、当初2021年11月に開催される予定でしたが、コロナ禍により2度延期され、2022年9月29日から10月2日にラプラタ川河口に面した南米有数のリゾート地であるウルグアイのプンタ・デル・エステで対面形式により開催されました。テーマは、“Pathology and Laboratory Medicine, beyond technology and health care”とされ、32か国からの参加者がありました。シンポジウム37、一般演題(口頭発表とポスター発表)113、企業シンポジウム7という内容で、充実したWorld Congressとなりました。

日本臨床検査医学会からの提案により、ウルグアイのDr. Maria Noel Zubillagaと私が座長を務め、“Recent progress and novel perspective in clinical laboratory medicine”と題するシンポジウムを10月1日に行いました。宮地勇人先生が動画により“Quality assurance of NGS-oncology tests through laboratory accreditation with on-site evaluation”について講演され、下澤達雄先生が“Urine tells us what is happening in the body”、私が“Molecular mechanism of triglyceride metabolism”と題して現地で講演を行いました。参加者から多くの質問があり、活発な討論が行われました。同日夜にWorld Congress恒例のGala Dinnerが開催され、ラテン音楽の演奏とダンスがあり、大変盛り上がりました。その席で、WASPALM presidentはイタリアのDr. Roberto VernaからウルグアイのDr. Walter Alallonに引き継がれました。

今回、私にとっては初めての南米訪問となりました。宮地先生は、他の予定と重なったため残念ながら現地参加されませんでした。私は下澤先生と往復の飛行機で一緒させていただきました。米国のアトランタ経由で往復しましたが、乗り継ぎの時間を含めて片道1日半の旅程となりました。空港においてコロナワクチン接種証明の提示など無事に済ませることができ、何とか予定通りに往復できましたが、ウルグアイと日本の時差は12時間で、地球の裏側であるということを実感しました。会議日程を終えた後、下澤先生とプンタ・デル・エステの周辺をタクシーで観て回る機会がありましたが、約270kmと世界一の川幅を有するラプラタ川河口の雄大な景色を楽しむことができました。

第32回World Congressは、2023年9月5日から8日にかけて同じく南米ブラジルのサンパウロで開催される予定となっています。往復に多少時間がかかりますが、多くの皆さまにご出席いただければ幸いです。

WASPALMがこれまで順調に活動を継続して発展して来られたのは、わが国の検査機器・試薬に係るCorporate Sponsorsの皆さまの変わらぬご支援によるものであり、改めて深く感謝いたします。引き続きご指導とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。